

「地図豆」の地図を広げて街歩き

### 133-1 醤油の匂い漂う野田市を歩く (9.5km)



野田の街中には、国指定名勝と（上花輪歴史館・高梨氏庭園）国重要文化財が各1か所、国登録有形文化財が6か所、その他に近代化産業遺産群に含まれる建物が12か所もある。その、どこまでも醤油の匂い漂う野田市の街を西へ東へと歩く。

#### 【道順】

東武鉄道野田市駅→キッコーマン御用蔵→野田町駅跡→本町通り・長命寺→成田道→上花輪不動寺・甲子講石塔→下河岸舁田家邸宅・江戸川堤（→上河岸戸邊五右衛門家邸宅→報恩寺）→上花輪歴史館・高梨氏庭園→菅原神社天満宮・須賀神社→興風会館→キッコーマン本社・稲荷蔵・旧野田醤油本店初代正門→奥富歯科医院・千秋屋社屋（→キノエネ醤油工場群→愛宕神社）→茂木佐公園・野田市民会館・野田市郷土資料館ベンガラ塀・春風館→茂木七郎次邸・茂木七左衛門邸煉瓦塀（茂木本家美術館）→キッコーマン第一給水所→野田市駅（短縮は赤字省略）

#### 【歩きの前に】

野田と言えば醤油、野田の醤油と言えばキッコーマン、ここまでは知っていても、キッコーマンの創業に関わったのが茂木家ということは知らない人が多いだろう。その茂木家の始祖が真木しげであって、夫の真木氏が大坂夏の陣に西軍にくみして自刃を遂げたため、妻のしげが野田に逃れ来たということはさらに誰も知らない。ともかく、その真木しげは、姓を茂木と改め、その子が茂木家の初代当主茂木七左衛門である。この本家から、茂木佐平治家、茂木七郎右衛門家、茂木勇右衛門家、茂木啓三郎家、茂木房五郎家といった分家

ができて、野田醤油の歴史が始まる。醤油の街野田に残るすべてのものが、茂木家に係るといっても過言でないほど、あちこちにその名が登場する。



キッコーマン工場・キッコーマン御用蔵

### 【街歩き解説】

#### ・東武鉄道野田市駅

東武鉄道野田線は、先ごろ東武アーバンパークラインと変わった。その野田市駅を下りるとすぐ、視覚でも嗅覚でも醤油の街であることが感じられる。

#### ・キッコーマン御用蔵

茂木佐平治家とは茂木家の分家のひとつ。

野田醤油の本格的な醸造は1661年（寛文元年）に上花輪村名主であった高梨兵左衛門が醤油醸造を開始したことに始まる。その翌年（1662年）には、茂木家分家の茂木佐平治が味噌製造を開始し、その後醤油製造も手がけた。キッコーマンの商標は、この茂木佐家の商標である。大正6年には、最初に手掛けた高梨家、流山で関東白味噌を生産していた堀切家、そして茂木本家ははじめとする茂木家六家が大同団結して野田醤油株式会社を設立し、のちにもっとも人気の高かった茂木佐家のキッコーマンの商標に統一することになったというもの。それが、「亀甲万印」である。

キッコーマン野田工場の一角には、キッコーマン御用蔵がある。これは、江戸川の堤近くにあった宮内庁に納める醤油をつくる御用蔵を移転したもので、現在は誰でも見学できる。

#### ・野田町駅跡

県道脇に「野田町駅跡・有吉町通り」の案内注が立つ。もちろん、野田の醤油運搬を目的として、明治44年（1911）、野田・柏間に県営軽便鉄道が開通した。そのころの野田町駅があったところには、今も鉄道の面影を残す建物が残る。

あたりは、明治 44 年（1911）、野田・柏間に県営軽便鉄道が開通。そのころの野田町駅があったところである。また、当時の千葉県知事・有吉忠一氏の功績をたたえて新設の駅前通りを有吉町と命名した。野田に鉄道敷設の気運が出てきたのは、明治 10 年代のことと言われる。野田と国鉄・常磐線柏駅を結び、野田の醤油を鉄路を通じて東京や各地へ運ぶことを計画した。しかし、従来の江戸川を使った、舟運業者との関係からその計画は進まず、結局千葉県営軽便鉄道として野田～柏間が開通したのは 30 年後の明治 44 年（1911）。建設費は全額を県債とし、野田の醤油醸造者による野田醤油組合が引き受けた。この時の千葉県知事が有吉忠一氏であり、駅がこの地に建設された。

#### ・下河岸舁田家邸宅・上河岸戸邊五右衛門家邸宅

下河岸の船積問屋であった舁田仁左衛門家は、明治 4 年に建てられ、1 階が帳場、2 階が船宿であった。上河岸には、同じ船積問屋の戸邊五右衛門家住宅がある。いずれも、国登録有形文化財に指定されている。船積問屋の主人の名をとり「五右衛門河岸」「仁左衛門河岸」とも呼ばれた。江戸川河岸には、野田の醤油醸造所から馬車や人車で運ばれてきた醤油が、醤油の原料となる大豆や小麦、塩などが船積みされ荷揚げされた。

下河岸舁田家邸宅河川側には、洪水から守るための煉瓦作りの遮水壁が設けられて興味深い。



下河岸舁田家邸宅

#### ・上花輪歴史館・高梨氏庭園

上花輪歴史館は、江戸時代に上花輪村の名主で醤油醸造を家業としていた高梨兵左衛門家（高梨本家）の居宅である。中には醤油醸造の道具類の展示と庭園の散策ができる。圧巻は、何と言っても江戸川河岸へと向かう人のために造られたのだという庭園西にある掘である。



高梨氏庭園入り口・庭園内の濠



茂木七左衛門邸煉瓦塀・茂木佐平治邸ベンガラ塀



稲荷蔵の塀・野田市民会館北の塀

(このほかにも特徴的な塀があって、興味を引かれた)

#### ・興風会館

野田醤油（株）が社会教育事業推進の目的で設立した財団法人が昭和4年に建築・竣工した建物が「興風会館」である。ロマネスクを加味したルネサンス風の建物は竣工当時、千葉県庁に次ぐ大建築であったという。国登録有形文化財に指定されている。

#### ・キッコーマン本社・稲荷蔵・旧野田醤油本店初代正門

キッコーマン本社敷地の北東にある稲荷蔵は、明治41年頃に建てられたもので、黒板塀



が美しい。元は茂木七左衛門の仕込蔵であったが、現在は倉庫として使用されている。

キッコーマン稲荷蔵から東に続く赤い煉瓦塀は茂木本家・茂木七左衛門邸。邸宅は関東大震災の後、大正 15 年の建築である。

キッコーマン本社の北にある小路の途中に、旧野田醤油本店初代の正門がある。

#### ・奥富歯科医院・千秋屋社屋（旧野田商誘銀行）・キノエネ醤油工場群

キッコーマン本社から本町通を北に進むと奥富歯科医院・千秋屋社屋など特徴的な建物が続く。野田商誘銀行は野田醤油醸造組合の発起により明治 33 年（1900）に設立された。「商誘」の名称は、醤油の語呂にちなんで名付けられた。

そして黒板塀に囲まれたキノエネ醤油工場群がある。キノエネ醤油は、天保元年（1830）の創業で、野田を代表する醤油工場の一つである。当社は、野田の醤油醸造者の大同団結にも加わず、独自路線を貫いた。

ちなみに、このキノエネ醤油は映画監督小津安二郎氏と深い関係にあるのだとか。小津安二郎監督の妹さんがキノエネ醤油の山下家に嫁いだ関係から、戦時下、小津監督の母親が野田に疎開した。監督も戦地より引き揚げてから鎌倉に住むまでの 6 年間野田に住んだ。といっても、ほとんど大船の撮影所に泊まり込みであったという。

#### ・茂木佐公園・野田市民会館・野田市郷土博物館・ベンガラ塀・春風館

博物館は元の茂木佐平治邸、現在は市に寄贈され市民会館となっている旧家邸内にある。公園脇に蔵に囲まれた通用門の周囲の塀の赤はベンガラ塗り。インドのベンガル地方産の赤い顔料であり、格式の高い屋敷に使われる。

道路を挟んである西にある茂木佐公園と郷土博物館邸内にあるのは茂木佐邸・茂木佐平治氏のお屋敷そのもの。



茂木七郎治邸・旧茂木佐平次邸（野田市郷土博物館・市民会館）



千秋屋社屋・興風会館  
(もちろん、建物に興味深いものが多い)

・茂木七左衛門邸煉瓦塀（茂木本家美術館）・茂木七郎次邸

キッコーマン本社隣の稲荷蔵から東に続く赤い煉瓦塀は茂木七左衛門邸である。邸宅は関東大震災の後の大正15年に建てられた。茂木本家美術館は、茂木本家十二代茂木七左衛門氏が収集した、葛飾北斎、歌川広重の浮世絵をはじめ、小倉遊亀、梅原龍三郎、横山大観、片岡球子など絵画から彫刻、陶芸などおよそ700点にも及ぶ作品を所蔵する。

さらに、創業家メンバーの旧茂木佐平治邸の住居と茶室の国登録文化財があり、この建物や庭園と屋敷地は野田醤油株式会社を経て市に寄贈されたもので市民会館、郷土資料館として利用されている。さらに、東弁天通りには、一見すると農家かと思いがう古いお屋敷が金融業としての帳場があるという茂木七郎治邸である。

野田市郷土博物館1階は「野田の歴史と民俗」の展示、そして昭和初期の童謡作曲家 山中直治についての展示がある。2階は「野田と醤油づくり」のテーマで資料が展示されている。

童謡作曲家 山中直治は、童謡「かごめかごめ」を全国に広めた人としても知られる。童謡「かごめかごめ」は、歌詞を変えながら全国で歌われていたのだが、昭和8年頃、同氏が野田地方で歌われていたこの童謡を採譜し、楽譜にして広島高等師範学校（現在の広島大学）発行の『日本童謡民謡教集』に紹介したという。これが契機となり昭和38年に岩波文庫から『わらべうた』で、野田で歌われている童謡として知られていった、

郷土博物館から道を隔てたところにある茂木佐公園の金寶殿本社は、その案内に「茂木佐平治家の稲荷神と竜神を祀るための、立川流大工・佐藤里次則壮による総檜造りの大唐破風の社寺建築（大正3年）。鳥居脇にある手水舎も豪華な大唐破風造りとなっていて、たいへん珍しい神社。堂には十六羅漢や花鳥魚類や十二支と見事な彫刻や鏝（かざり）金物が約150点施されており、江戸から大正にかけての伝統的職人技が花びらいた近在屈指の建造物である。大正15年より、遊楽園内のよろこび教会釈尊堂として使用されたが、平成



17年に元に戻された」とある。

#### ・茂木七左衛門邸煉瓦塀（茂木本家美術館）・茂木七郎次邸

黒塀が美しいキッコマン本社隣の稲荷蔵から、東に続く赤い煉瓦塀は茂木七左衛門邸である。邸宅は関東大震災の後の大正15年に建てられた。茂木本家美術館は、茂木本家十二代茂木七左衛門氏が収集した、葛飾北斎、歌川広重の浮世絵をはじめ、小倉遊亀、梅原龍三郎、横山大観、片岡球子など絵画から彫刻、陶芸などおよそ700点にも及ぶ作品を所蔵する。

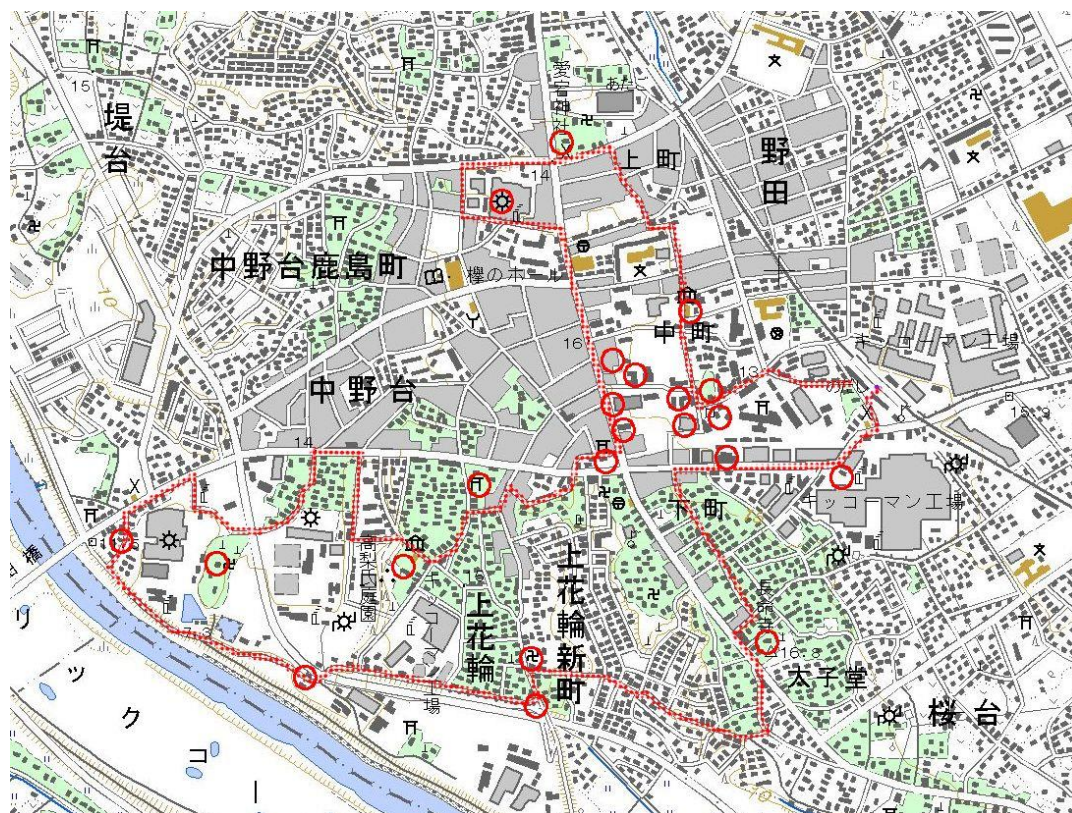
さらに東弁天通りに、一見すると農家かと思いがう古いお屋敷が金融業としての帳場があるという茂木七郎治邸である。安政7年（1854）頃に建てられた野田市内最古の木造住宅とのこと。

#### ・キッコマン第一給水所

大正12年（1923）から昭和50年（1975）頃まで工場および地域住民に給水したこの施設も、近代化産業遺産群の建物のひとつ。

終わってみれば、醤油とともに特徴的で多彩な塀が印象に残る街歩きになるはず。

#### ルートマップ



\*\*\*\* オフィス 地図豆 Yamaoka mitsuharu \*\*\*\*